新春座談会

時代が変わっても、決して変わらないこと。それは、未来を担う子供たちが健全に育ってほしいと願う、人々の思いではないでしょうか。平成22年の新春にあたり、下北、津軽、南部の各地域で子供たちの育成に関わる活動をされている方々にお集まりいただき、それぞれの視点から子供たちや地域への思いなどを話しあっていただきました。司会はフリーキャスターの千葉美佳さんです。

「心」を育む、未来へはばたく。

晴れ舞台に立ち、笑顔で練習の成果を披露

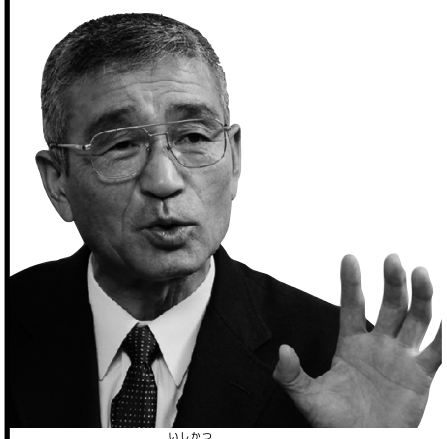
毎年2月に本番を迎える「八戸えんぶり」

子供たちの心も育てる誠心館の柔道

挨拶で始まり、挨拶で終わる柔道の稽古

自然を五感で感じながら、道なき道を行く

木に残る熊の爪あとを見ながら話を聞く



大谷石捷（いしかつ）さん
白神自然学校一ツ森校・指導者。弘前市在住。

秘密基地の「またぎ小屋」にたどり着いた子供たち

柔道、自然学校、えんぶり。さまざまな体験が子供を育てる。

司会　皆さん、あけましておめでとうございます。

大内・大谷・小泉　あけましておめでとうございます。

司会　皆さんは下北、津軽、南部、それぞれの地域で子供の育成に関わる活動をされていますが、まず大内さんは柔道の指導をされていらっしゃいますね。

大内　25年ほど前ですが、子供たちの健全な育成に役立ちたいと思い、大間町に柔道の道場を開きました。

司会　アテネオリンピックで銀メダルを獲得した泉浩さんも、小学生時代は大内さんの道場に通っていたそうですね。今は何人くらいの子供たちが？

大内　幼稚園児から高校生まで、26人の子供たちに柔道を教えています。そのうち3分の1は女の子なんですよ。

司会　大谷さんは、世界遺産に登録されている白神山地の自然学校で、講師をされていらっしゃいますね。

大谷　平成15年に廃校になった鰺ヶ沢町の一ツ森小学校の校舎を活用して、白神自然学校一ツ森校ができました。私は「最後のまたぎ」と言われた父親にくっついて幼い頃から白神山地を歩き回ってきたので、その経験を活かして案内などをしているんです。年間に250人くらいの子供たちがやってきます。

司会　小泉さんは八戸市を中心に古くから伝わる祭り「えんぶり」で囃子方をされながら、子供たちの指導にもあたっていらっしゃるそうですね。

小泉　はい。日曜日などに母校でもある中居林小学校の「えんぶり部」で、太鼓や笛の囃子を教えています。私もこの部活でえんぶりの楽しさを知り、顧問の先生の熱意に感動した思い出がありますので、子供たちが楽しい時間を過ごせるように努めています。ただし、八百数十年の伝統があるえんぶりに誇りを持っていますので、子供であっても芸のことでは厳しく接しています。

大内二郎さん
大間誠心館道場・館長。大間町在住。

幼稚園児から高校生まで、誠心館で柔道を習う子供たち

分野は違っても、「心」の教育に努める思いは同じ。

小泉真子（まこ）さん
中居林えんぶり組・囃子方。八戸市在住。

司会　活動を通じて、子供たちに何を伝えたいとお考えですか？

小泉　えんぶりには楽譜がありませんので、耳で聞いて目で見て笛や太鼓や手平鉦（てびらがね）を覚えなければなりません。これは大人でも難しいことですから、まずは楽しさを感じ取ってもらうこと、そして、挨拶をする、道具を大切にするという基本的なことを身につけてほしいと思います。

大内　私も、基本は挨拶と礼儀作法。これは厳しく指導しています。道場に入門したいという話があった時には、必ず親子で稽古を見学してもらいます。はじめは声の大きさなどに驚いても、年上の子が年下の子の面倒をきちんと見ていますので、皆さん安心されるようです。入門してきた子供は、なるべく早く性格を把握するようにしています。ほめられると成長する子もいれば、強く言ったほうが成長する子もいるんですね。

司会　柔道では「心技体」が大切と言いますが、心というのは、どういうことなのですか？

大内　柔道には勝ち負けがつきものですが、ただ強ければいいのではなく、「心技体」が一つにならなければいけません。特に今の時代は「心」が忘れられているように思います。つらくても自分に打ち勝つ強い心と、相手の痛みを理解して思いやる優しい心。こうした柔道の心を持ってもらいたいと願っています。

小泉　えんぶりにも通じることですね。囃子方は自分中心ではだめなんです。舞を引き立て盛り上げ、人を楽しませる気持ちが大事なんですね。えんぶりを通じて、子供たちも人を思いやる健全な心が育ってくれたらいいなと思います。

大谷　心の教育には自然も大きな力があります。ブナの森には、きれいな場所に生えている木もあれば、岩の間などに生えて根っこが見えている木もある。「木だって必死に生きているんだ。みんなも頑張れ」と伝えたくて、こうした木を子供たちに見せています。自然は生きることの大変さと同時に、命の大切さを無言で教えてくれるんですよ。

大家族のような「中居林えんぶり組」の皆さん

成長のきっかけになる機会を与えたい。

大内　もう一つ、子供たちに学んでほしいのは、チャレンジすることの大切さです。体が小さくても力が弱くても、タイミングと技で大きな相手を投げられるのが柔道の醍醐味です。これを実感し、やればできることが分かれば、前向きになれると思うんです。

大谷　自然学校でも、目標の達成に重きをおいています。私の父親が建てた「またぎ小屋」を自然学校で活用していまして、「秘密基地」と呼んで、片道2、3時間かけて子供たちを連れて行きます。でも登山道は歩かせず、道なき道を行く。「まだか、まだか」と言いながら汗だくになって、子供たちはつらい思いをしますが、到着すると達成感を得られ、みんな大喜びするんですよ。

小泉　やる気があっても、それを実行できるかどうかが重要ですよね。子供たちに興味を持たせたり、機会を与えたりする、大人のサポートが大切ですね。

司会　子供たちが成長しているなと感じるのはどんな時ですか？

大内　「実るほど頭を垂れる稲穂かな」と言いますけど、真の柔道家は強くなるほど謙虚で低姿勢になっていきます。子供たちにも、そうした心の変化が見えてくるとうれしいですね。

小泉　はじめは教えられるままに練習していた子供が自分なりに工夫をするようになる、その過程を見ていると成長を感じますし、やりがいも感じます。

司会　子供たちはすぐに吸収していきますものね。

大谷　自然から吸収できることもたくさんあります。子供たちは高い山や大きな木に目がいきがちですが、私は足元を見るように言うんです。歩きながら見ていけば、草がある、花がある、虫もいる。五感で感じられれば、自然と無言の会話ができるんです。私自身、生活の知恵など自然から無言の教えを受けて育ってきましたから。

大事にしてほしい、思いやり、ぬくもり、感謝の気持ち。

司会　子供たちにはこれから、どのように育っていってほしいと思いますか？

大内　逆境になっても跳ね返せるような強い心と、人の痛みが分かる優しい心を持ち続けて、社会に出ても活かしてほしいですね。以前、「道場10年の歩み」という冊子をつくり、教え子たち400人ほどに送ったのですが、「仕事で悩んでいたけど、道場でのことを思い出したら頑張ることができた、柔道をやっていて本当によかったー」といった手紙をもらいました。本当にうれしかったですね。柔道をやったことをバネに、当たり前のことを当たり前にできる、素直な気持ちで社会に貢献できるような人間に育ってほしいと願っています。

大谷　自然学校から帰る子供たちに、「大人になって、つらいことがあったら、また来なさい」って言うと、笑顔でうなずいてくれますよ。自然から勇気をもらえることを分かってくれたのならうれしいですね。子供たちには自然の恵みや人への感謝の気持ちを持ち続けてほしいと思います。人間は動植物の命をいただかなければ生きていけないわけですから。

小泉　えんぶり組は子供から70代の方までいる大家族のようなものです。とても温かい雰囲気で、このぬくもりが私にとっても一番の魅力ですが、子供たちにもその中でいろいろなものを吸収して成長してほしいと思います。えんぶりには八百数十年の歴史がありますが、技術だけでなく、地域への思いや、ぬくもりも代々受け継がれてきたのだと思います。子供たちには、さらに次の世代へ伝えていってほしいと願っています。

大谷　お祭りで子供が一生懸命に太鼓を叩いているのを見ると、ジンとくるよね。自然も大事だけど、歴史や文化も大事。しっかり伝えていってほしいですね。

司会　お話をお聞きして、柔道の精神も自然の素晴らしさも、また脈々と伝わる伝統芸能も、受け継いでいかなければいけない大切な「宝」だということが分かりました。そして、青森の大きな明日へ、皆さんの子供たちに託す熱い思いが伝わってきました。今日は、いろいろなお話をありがとうございました。

司会・千葉美佳さん

J POWER
電源開発

大間現地本部（大間原子力建設所／下北郡大間町大字奥戸字小奥戸281　青森事務所／青森市本町1-2-20）　大間幹線建設所／むつ市本町1-10　電源開発株式会社（本店）／東京都中央区銀座6-15-1　http://www.jpower.co.jp